

(3) クワ【右から3番目】

北海道において造林植え付け作業で一般的に使われている器具です。

(4) ディンプル【左端】

これは先端部を土中に差し込み植穴を開けるものですが、これも前述のとおり、差し込んだだけでは植穴が開かないことから、差し込んでから前後左右に傾けながら回して植穴を開けました。

写真のディンプルは、マルチキャピティコンテナ300cc用として設計されたものです。

○コンテナ苗の問題点

(1) コンテナ苗は根鉢があるので、ある程度の水分を含有していないと根鉢が崩れやすい状況が見られ、コンテナ苗の取扱いに注意する必要があります。

(2) コンテナ苗の運搬では、根鉢の形状を保持できるような容器に入れる必要があることがわかりました。

(3) 今回の植え付けでは、通常使用する苗木袋では根鉢が壊れると考え、保管場所からプラスチック製の買い物カゴを使用して植え付け箇所へ運搬しました。

○まとめ

今回の植え付け作業で感じた点についてとりあえずまとめてみましたが、今後、データ等を整理していくこととしています。運搬方法については今後も検討していく必要はあるものの、裸苗よりも植え付け作業が楽であるように思われ、今後とも様々な検証をしていくことにより有効性を調べていきたいと考えています。

また、来春には活着状況調査、さらに来秋には成長調査を行うこととしており、コンテナ苗の良好な特徴が見られることを期待しています。



トピックス

■現地検討会の開催

森林技術センターが実施する技術開発課題については、北海道森林管理局技術開発委員会において、毎年度、試験課題の計画及び実行結果について報告・審議をしています。

この技術開発委員会には外部有識者の方々を委員としていますが、現地に即した有用な意見や指導に向け、また、活発な審議となることを目的として、技術開発委員による技術開発課題試験地での現地検討会を8月29日～30日の2日間にわたり開催しました。



当日は天候にも恵まれ、各技術開発課題試験地を視察していただき、活発な意見交換が行われました。



林野庁北海道森林管理局

<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido>

森林技術センターだより

095-0015
北海道士別市
東5条6丁目



TEL 0165(23)2161
FAX 0165(23)2164
平成23年 11月15日
発行責任
森林技術センター所長

新規技術開発課題の進捗状況を紹介します

「コスト削減をめざした森林整備への取組～コンテナ苗による省力造林に向けて～」の進捗状況について

森林技術センターにおいて、今年度から取組みを始めた「コスト削減をめざした森林整備への取組～コンテナ苗による省力造林に向けて～」課題については、林野庁の平成23年度国有林野事業技術開発重点取組課題として選定されています。

今秋、この技術開発課題にかかるマルチキャピティコンテナ苗木などの植え付け作業を行いましたので、これまでの取組み状況についてご紹介します。

○技術開発課題の概要

試験箇所 上川北部森林管理署2200林班か小班

試験の目的 マルチキャピティコンテナ苗木（以下「コンテナ苗」という。）と普通苗木（以下「裸苗」という。）との成長等の比較検討をすることにより、コンテナ苗が北海道において有効な造林技術となるかについて検証する

課題実施期間 平成23年度～平成25年度

○試験地設定

(1) 本課題試験地では、スベード・クワ等を使用したコンテナ苗の植栽と、現行の植栽方法（クワを使用した裸苗の普通植え）とで、それぞれの植え付け工程、活着状況、生長状況について比較検討することを目的としています。

このため、樹種ごとに植栽方法別の試験プロットを設定することとし、(図-1)のとおり17プロットを設定しました。

(2) 試験プロットについては、一般的な植え付け仕様である筋刈3m残し幅4mを基本に、刈払機での人力地拵作業により9月中～下旬に現地造成を行いました。

(3) 植栽樹種については、北海道での林業主要樹種であるトドマツ、アカエゾマツ、カラマツ及びグイマツとしました。

(4) 植栽本数については、ha当たり本数2,000本を目安に苗間1.43m、列間1.5mとし、試験プロットごとの植栽方法、植栽本数については(表-1)のとおりとなっています。

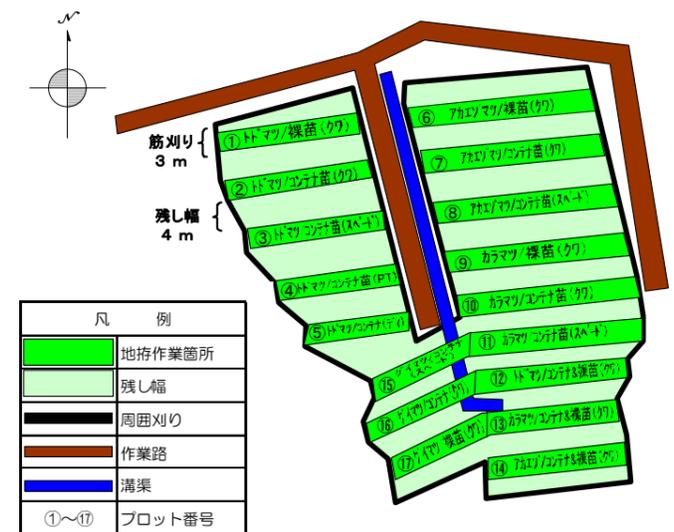


図-1 プロット配置図

